

山本貴子さん 被爆ピアノコンサート

平成30年10月26日(金) 9:30~10:50

(宮井小学校体育館にて)



今年も山本貴子さんの被爆ピアノコンサートを開催します。戦火をくぐり抜けた被爆ピアノの美しい音色には、平和への願いが込められています。

子どもたちも「さんぼ」と「ピリーブ」を合唱します。ぜひご覧ください。

〔左の写真〕被爆ピアノコンサート (H28.9.2)

平和のメッセージ 再び届けたい

73年前、広島で被爆したピアノを使った演奏会が、10月22~26日、徳島県内の10小中学校で開かれる。徳島市のピアニスト山本貴

子さん(46)が、戦争について子どもたちに考えてもらおうと企画した。素朴な音色で平和の尊さや命の大切さを訴える。

被爆ピアノ 1945年8月6日、広島市中に投下された原子力爆弾の爆心地から3キ圏内で被爆したピアノを指す。98年、被爆者から託された傷だらけのピアノに、調律師の矢川光

則さんが最小限の修復を施し、演奏できるようにした。その後、別のピアノも直し、現在矢川さんが6台を所有している。全国各地で1800回を超える平和コンサートが行われている。

が修復したヤマハ製の2台。1台は持ち主の名にちなみ「ミサコのピアノ」と呼ばれるもので1932年の製造。爆心地から1.8キの民家で被爆した。もう1台は3キ地点で被爆した38年製造のピアノ。昨年12月、非政府組織「核兵器廃絶国際キャンペーン(I CAN)」のノーベル



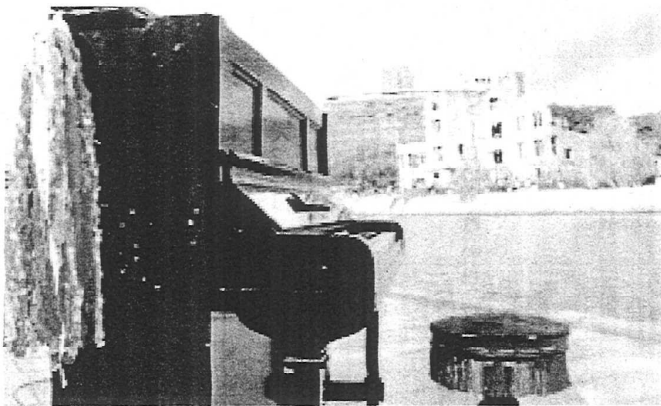
山本貴子さん

修復の調律師も役割語る

平和賞授賞式に合わせ、ノルウェーのオスロで開かれた「コンサートでも使用された。山本さんはハンガリー、今年、学校での演奏10年間留学した後、県内の学校でピアノ演奏会を始めた。201

ピアニスト 山本さん 10月に県内10校

被爆ピアノで演奏会



矢川光則さんが修復した被爆ピアノ
|| 広島市(矢川さん提供)

に被爆ピアノを奏でることを決め、矢川さんから快諾を得た。演奏するのは「エステ荘の噴水」(リスト)など水にまつわる曲。黒い雨に打たれ、水を求めてこなくなった多くの犠牲者に鎮魂の思いを込める。「第九」のアジア初演100周年にちなんで、ベートーベンの「第九」も奏でる。山本さんは「戦火をくぐり抜けた被爆ピアノを大切に弾くと、とても優しい音色が出る。傷ついても頑張れると感じ取ってくれると思う。絶望の中から湧き上がる希望を表現したい」と力を込める。矢川さんは「ピアノの音色を聞いたり、触ってもらったりして、子どもたちに平和の思いをさせてもらいたい」。演奏会当日、各会場で被爆ピアノが戦争の語り部としての役割を果たしてきたことを話す。

(平成30年8月7日の徳島新聞より)

ご支援ありがとうございます。 ◎アイポート徳島様 ◎阿波銀行 学術・文化振興財団様 ◎徳島県文化振興財団様 ◎徳島新聞社 社会文化財団様 ◎徳島県民プラザ様 (順不同)